

衆議院沖縄3区での屋良さんの勝利をふまえ、辺野古新基地中止を求める
(談話)

2019年4月22日
安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男

21日に投開票された衆議院沖縄3区の補欠選挙で辺野古新基地反対を掲げた「オール沖縄」の屋良朝博さんが自民党の相手候補に大差をつけて当選しました。

私たちは、沖縄「建白書」実現を求める玉城デニー知事の後継議席を守り抜いた屋良さんの勝利を心から喜ぶものです。そして、「辺野古新基地ノー」の民意に従い、安倍政権がただちに辺野古新基地工事を中止して沖縄県との協議に応じるよう求めます。

今回の選挙で相手候補は、これまでの選挙と違って辺野古新基地推進の立場を明確にしてきました。この候補に対して、辺野古新基地反対を掲げた屋良さんが圧勝したことは、新基地をめぐる今後のたたかいに大きな意義を持ち、沖縄と連帯する全国の人々を激励するものです。

また、同日行なわれた、高江を中心に米軍ヘリパッドをめぐるたたかいの大きな舞台となった東村の村長選挙で、ヘリパッド撤去・北部訓練場返還を掲げる當山全伸さんが、前村長の後継者を大差で破って当選したことは、基地撤去のたたかいにとって大きな意義を持っています。

このように、辺野古の地元でも高江をかかえる自治体でも「新基地反対」の民意は揺らぐことなく、さらに前進を遂げています。

いま、海底軟弱地盤問題などで本格化の見通しが立たない辺野古新基地工事の中止と普天間基地の撤去を求めて全国からたたかいを強めれば、新たな展望をひらく条件が生まれています。

当面、5.25全国総行動と国会包囲行動などを大きく成功させるとともに、参議院選挙で野党の共同を強めて、安倍政権を退陣に追い込んでいくたたかいを強化する決意です。

以上